

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
訪問調査日	平成 21 年 11 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
所在地	鹿児島市小松原一丁目1番2号 (電話) 099-268-2627

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年11月20日 評価確定日 平成21年12月28日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 12.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円 (水道光熱費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野上病院 ・ 西歯科医院
---------	--------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの目の前には県道、すぐ後ろは市電が走る環境の中、病院や商店が並ぶ一角に開設されて5年目を迎える。「あなたの想いや家族の想いを大切に、笑顔の絶えない安らげるホームを目指し地域、家族と共に支えます」という理念に沿った支援を行っている。利用者の喜ぶ行事を毎月計画したり、リハビリを楽しくしたいと「いきいき健康さるくマップ」の地図を作り、利用者のやる気を引き出すなど、職員の熱心な取り組みが利用者の笑顔にあふれている。家族が協力的なことと、男性職員が多いことが特徴でスタッフが男性だけの時には、利用者の協力を得ながら笑顔のある生活を支え合っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果はミーティングで報告している。運営推進会議を活かした取り組みは、行政への参加を働きかけ包括職員の参加を得られるようになった。運営に関する家族等意見の反映は、家族の些細な意見も取り上げ職員が共有するようにしている。職員を育てる取り組みは、新人指導を経験のある職員が行い、資格取得を目指す職員には研修に参加できるように配慮するなど改善に向けた取り組みが行なわれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の自己評価を確認してもらい、振り分けた項目を職員が評価し意見を記入した後に、介護リーダー、計画作成担当者、管理者と共にまとめている。職員は、項目毎の視点を確認する事で意識づけになり、利用者の思いを個別に対応していけたらという意見に繋がっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。包括支援センター職員の出席も得られるようになり、警察からも参加して頂いた。討議内容は、利用者の状況、活動状況、行事予定などの報告後参加者による意見交換が行われている。警察より、利用者の身元確認の為に靴の中に名前を書いておくというアドバイスを実行したり、地域との交流を深めていくためのアイデアを出し合いサービスに繋がるように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見や苦情を表せる機会は、年2回行事に合わせて行なう家族会、運営推進会議、面会時等と、玄関にある意見箱、第三者委員に苦情相談をすることなどである。家族の面会が多いので、どんな小さな意見も取り上げていこうという姿勢を持ち、相談・苦情ノートに記録するようにしている。出された意見や要望は職員で情報共有し、話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板のやりとりなどでふれあう機会を作ったり、近所の理髪店や飲食店を定期的に利用するなど近隣との交流に努めている。また、地域活動として月1回の清掃活動を続けていることで、声をかけてくれたり、認知されるようになってきているが、認知症への理解は不十分であると感じている管理者は、民生委員と協力しながら地域でセミナーなどを行なっていきたいと考えている。</p>

2評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、利用者が地域の中で自分らしく普通の生活が送れ、より多くの笑顔で安心して過ごせるように支えていくことを理念として作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで理念の唱和を行い、日々の生活場面でも理念を意識できるように、玄関入り口や事務所に掲示している。管理者は、理念に即したケアプランを作成し、ケアの実践が行なわれるようにミーティングで説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、校区の運動会や敬老会にも参加している。お達者クラブがフラダンスの慰問に来たり、小学生のボランティア、高校生の実習の受け入れなども行なっている。事業所で行った大正琴の演奏会には近隣の方にも参加を呼びかけるなど交流の機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価を確認しながら、振り分けた項目を職員が評価をした後に、管理者、計画作成担当者、介護リーダーでまとめている。職員は項目毎の視点を確認することで、ケアに対する意識付けとなっている。	○	自己評価を行なう意義については職員も理解しており、ケアの振り返りの機会となるように、全職員が評価を行なえる工夫をされる事と、自己、外部評価の改善課題の取り組みも話し合い、記録に残される事を希望します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、継続的な行政への働きかけにより包括職員の参加も得られるよう改善している。討議内容は、事業所の状況、活動報告後に参加者による意見交換を行なっている。地域との交流を進めていく為回覧板に「便り」を載せたいと希望するなどサービスの向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホーム 笹貫の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとは連絡を取り合い情報を交換している。市の介護相談員の受け入れを年1回行うなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行されるホーム便りには、利用者の生活の様子を写真入りで紹介し、家族への報告(職員異動等)案内、行事予定などを記載し請求書と一緒に送付している。多くの家族は月1回の面会があり、健康状態や生活の様子を報告し金銭出納帳を確認しサインを貰っている。遠方の家族には、出納帳のコピーを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、運営推進会議、面会時、意見箱、苦情相談の第三者委員などに意見・苦情を表せる機会があるが、面会の家族が多いので、面会時の小さな意見まで拾いあげるように職員は意識している。出された意見や要望は、ノートに記載し職員が共有、話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員のケアが受けられるように、ユニット間の異動は行わないようにしているが、申し送りを全体で行っているので必要な時の職員の協力体制はできている。管理者は、職員との面談を行いコミュニケーションを多くとるようにし、離職を抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画を立て、担当職員を決めて研修を行っている。外部研修は、参加状況を記録し、職員が公平に参加できるように配慮すると共に、研修内容を確認し資格取得を目指す職員に勧めている。新人職員の指導は、経験ある職員が担当することで職員間の繋がりもできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホーム連絡協議会に加入し、研修会や交流会に参加している。新人研修の一環として法人内のホームへ2～3ヶ月間の研修に行かせ、そのホームから職員が研修に来る事でお互いの良い所を学び合っている。関連法人のホームとは、利用者を含めた畑交流もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの時は、面会に行き関係を築いている。在宅からの場合は、本人と家族に見学に来て半日を過ごしてもらい、雰囲気馴染んでもらうと共に、職員も良く観察し状態把握に努めている。入所後は利用者の状態に応じて、不安や緊張を和らげる声かけや家族の面会を増やすなど協力を求めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を活かし、お花を活けたり、料理の仕方や味付けを教えて貰う場面も多く職員は感謝の言葉を伝えるようにしている。職員の様子をよく見ている利用者から、取れかけたボタンを付けて貰うなど、一緒に過ごす中で労わりや励ましの言葉をもらう場面もあり支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者寄り添い、傾聴することを心がけ、会話の中で発した言葉や行動から思いを把握している。6ヶ月に1回私の姿勢持ちシートに、担当職員を中心に気づきを書き入れている。職員の観察力を発揮し体調の変化、運動レベル、認知のレベル、不安、願い、したい事などを記録し共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで担当職員から報告を受け、他の職員からの気づきと私の姿勢持ちシートをケアプランの参考にしている。担当者会議は家族の面会時に行い、遠方の家族に電話で確認し、本人、家族の思いと医師からの指示、職員の意見が反映した介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングでケアプランの目標が出来ているかどうかを確認、検討し、6ヶ月ごとの見直しを行なっている。状態の変化が見られた時には、家族の意見や医師等のアドバイスを参考にしながら新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に合わせ、協力医療機関の往診にも対応している他、訪問マッサージや病院受診の送迎や受診支援、選挙や美容院への移送サービスなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。適切な医療が受けられるように、病院受診記録に受診状況、医師から指示を記録し情報を共有している。受診時の結果は電話や手紙で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者は医療機関の連携状況から看取りまでは行わないとしているが、ターミナルケアを希望されている家族もあり、職員の意見は最後までお世話していきたいと思っている。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての対応を明確化され、家族に説明し同意がえられるようにすることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、利用者に対し敬う気持ちを持ってケアにあたり、言葉遣いや言葉の強さ、大きさにも気を配るようにアドバイスしている。ミーティングでは、プライバシーについて職員の意見を聞くようにし、個人情報を他者に口外しないように指導している。記録物の取り扱いは、適切に行なわれている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活のリズムは崩さないように、利用者のペースにあわせ起床、食事、入浴などを支援している他、買い物や毎日の散歩などの希望にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食材の品質にも気を配り、栄養士の職員が利用者の意見を取り入れた献立を提供している。利用者は野菜の下ごしらえや配膳、下膳、茶碗洗いなど力量に応じて手伝い、食事前には嚙下体操を行い、BGMを流し食事の雰囲気を作り、職員と会話しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回から3回を目安に支援しているが、毎日入浴される方や夕方入浴される方など、希望に沿えるように支援している。拒否される方には、声かけの職員や時間帯を替えたり、本人の興味のあることをして誘導するなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の職歴や生活歴から、生け花、洋服たたみ、畑作業、茶話洗い、配膳下膳などの出来る事をしてもらっている。リハビリとして行なっている、廊下歩行、ストレッチ体操、ボールを使った筋トレなども楽しみにしており、毎月ある行事、誕生会や外食、花見、木市などが気晴らしの支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、車椅子の方も一緒に公園へ散歩に行ったり、非常口から出て椅子を並べ花電車を眺めるなどしている。関連法人のホームに共同の畑があり、草取りや収穫などに出かけている他、買い物や理美容、ドライブなど希望に沿って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向にある利用者の行動パターンを把握し、職員間で情報を共有しながら見守りをしている。チャイムやセンサーで対応しているが職員が手薄になる時間帯は、2階の入り口のみ施錠し、勝手口はあけている。玄関前がすぐ道路で交通量も多いため、安全に配慮して対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下に消防訓練を行っている。昼間、夜間想定避難訓練の他、地震や水害等に関する講習も受けている。避難訓練の際には近所の方にも声をかけ、町内会を通じ避難時の協力の呼びかけも行なっている。飲料水や非常食なども確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1日1400kcal、水分は1500ccを目安に摂取量をチェックし記録している。食事形態は、利用者の状態に合わせてろみ、きざみなどに対応し、嗜好品のある方には代替品を準備している。毎月1回の体重測定で栄養状態をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ポーチにはベンチが置いてあり一休みできる。ホールは広々としてダイニングテーブルの他ソファも置いて、思い思いの場所で過ごせるようになっている。リハビリの一環で廊下を歩いた距離を手作りの鹿児島地図に記録していたり、壁には年齢に応じた横綱番付表が張られ、利用者が楽しみながら生活できるように職員は工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札を飾り目印としている。居室には洗面所とベット、タンスが備え付けだが、使い慣れたタンスや机、テレビや冷蔵庫、ラジカセなどが持ち込まれ、大切にしている家族の写真や置物が飾られている。直通電話を引いている方もおり、居心地良く過ごせるような居室となっている。		